

日本文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester
日本文芸形成論特論Ⅱ	物と事の表現史	2	佐倉 由泰	後期 水曜2限
日本文芸形成論特論Ⅲ	文学における「記憶」と「忘却」	2	仁平 政人	前期 水曜2限
日本文芸形成論特論Ⅳ	近代・現代文学から読む「生」と「死」	2	佐藤 泉	前期 集中講義
日本文学総合演習Ⅰ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰、横溝博、仁平 政人	前期 火曜4限
日本文学総合演習Ⅱ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰、横溝博、仁平 政人	後期 火曜4限
日本古典文学研究演習Ⅰ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	前期 月曜4限
日本古典文学研究演習Ⅱ	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	前期 月曜5限
日本古典文学研究演習Ⅲ	11・12世紀の奥羽をめぐる文学の形成	2	佐倉 由泰	前期 木曜2限
日本古典文学研究演習Ⅳ	11・12世紀の奥羽をめぐる文学の形成	2	佐倉 由泰	後期 木曜2限
日本近代文学研究演習Ⅰ	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	前期 水曜4限
日本近代文学研究演習Ⅱ	近現代文学における〈異界〉	2	仁平 政人	後期 水曜4限

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ

曜日・講時：水曜2限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM23203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT602J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：物と事の表現史

2・授業の目的と概要： 演習形式を取り入れた授業を通して、世の中のさまざまな事物の表現の歴史を、文学的意味、文化的意味に注目して考究する。

3. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 はじめに
- 2 物と事の表現史を考えるとということ
- 3 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 4 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 5 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 6 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 7 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 8 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 9 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 10 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 11 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 12 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 13 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 14 話題提供とそれにもとづく意見交換
- 15 まとめ

5. 成績評価方法： 授業時の話題提供 [50%]・授業への参加 [50%]

6. 教科書および参考書： テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習： 各回の授業で取り上げる作品、論考等をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、幅広く考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13202, **科目ナンバリング：**LJS-LIT603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文学における「記憶」と「忘却」

2・授業の目的と概要：本授業では「記憶」と「忘却」の諸問題を視野に入れて、古典から近現代にいたる日本文学の多様な様相について考察を行う。

授業は演習形式で、受講者は (1) 自身の関心に基づく報告、(2) 関連する文献の検討のいずれかを行う。

3. 学習の到達目標：テキストを読解する能力を高めるとともに、日本文化および批評理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表 (60%)・授業への参加 (出席・質疑応答) (40%)

6. 教科書および参考書：参考文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文芸形成論特論IV

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：佐藤 泉

コード：LM98804, 科目ナンバリング：LJS-LIT604J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代・現代文学から読む「生」と「死」

2・授業の目的と概要：近年の思想、文化批評において「生政治」「生権力」という概念がにわかに浮上してきた。人々の「生」そのものが政治の主題となったのが近代という時代であるが、いまその近代的体制が急速に変容をとげていることの一つの兆候だといえる。この科目では近代・現代の文学作品を通して「生」「死」をめぐって何が語られてきたのか、それはどのような時代と環境に条件づけられていたのかを検討する。

3. 学習の到達目標：近代・現代の文学作品のいくつかを取り上げ、「生」や「死」がどのように語られてきたか、時代のなかでどう変化してきたのかを概観することで、私たちが今置かれている言説環境を理解する手がかりを得ることを目標とする。このことを通して自己と他者の「生」をいつくしむことの困難さと重要性を学びたい。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、授業ガイダンス（本講義の目的と概要）
- 2、「生」「死」の問題を語るための用語と問題意識
- 3、森鷗外『高瀬舟』を読む 安楽死と「知足」
- 4、武田泰淳『富士』を読む 非常事態下の障害者
- 5、辺見庸『月』その1
- 6、辺見庸『月』その2
- 7、トニ・モリソン『ピラヴド』その1
- 8、トニ・モリソン『ピラヴド』その2
- 9、伊藤計劃『ハーモニー』その1
- 10、伊藤計劃『ハーモニー』その2
- 11、伊藤計劃『虐殺器官』その1
- 12、伊藤計劃『虐殺器官』その2
- 13、ハンガン『少年が来る』その1
- 14、ハンガン『少年が来る』その2
- 15、授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート 50%、授業への参加意欲 50%

6. 教科書および参考書：「授業内容」欄に挙げた作品

7. 授業時間外学習：「授業内容」欄に挙げた作品をできるだけ読んでおいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文学総合演習 I

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人

コード：LM12404, **科目ナンバリング：**LJS-LIT605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2・授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

3. 学習の到達目標：日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより(オンラインによる参加も可能)実施する。

1. ガイダンス
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。もしくは発表者が Classroom にアップロードする。参考書は、随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人

コード：LM22405, **科目ナンバリング：**LJS-LIT606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2・授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

3. 学習の到達目標：日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより(オンラインによる参加も可能)実施する。

1. ガイダンス
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。もしくは発表者が Classroom にアップロードする。参考書は、随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習 I

曜日・講時：月曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM11401, 科目ナンバリング：LJS-LIT607J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「浮舟」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「浮舟」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス(発表者及びローテーション決定)
2. 講義(「浮舟」巻までの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (八) 早蕨～浮舟』(岩波書店、2020年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

- ・本演習は、5時限目も連続して履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：横溝 博

コード：LM11503, **科目ナンバリング：**LJS-LIT608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「浮舟」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「浮舟」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「浮舟」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語(八)早蕨・浮舟』(岩波書店、2020年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・本演習は、4校時目から続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT609J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：11・12 世紀の奥羽をめぐる文学の形成

2・授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、11・12 世紀の奥羽をめぐる文学作品の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

3. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 解説 11・12 世紀の奥羽
- 2 解説 前九年合戦と『陸奥話記』
- 3 解説 後三年合戦と『後三年記』
- 4 解説 11 世紀の奥羽と和歌 — 能因、橘為仲を中心に —
- 5 解説 藤原清衡と説話・往生伝
- 6 解説 『吾妻鏡』所載「寺塔已下注文」
- 7 解説 「中尊寺供養願文」
- 8 解説 12 世紀の奥羽と和歌 — 西行を中心に —
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 成績評価方法： 授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書： テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習： 各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24203, **科目ナンバリング：**LJS-LIT610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：11・12 世紀の奥羽をめぐる文学の形成

2・授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、11・12 世紀の奥羽をめぐる文学作品の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

3. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 まとめ

5. 成績評価方法： 授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書： テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習： 各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13405, 科目ナンバリング：LJS-LIT611J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代文学における〈異界〉

2・授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2
3. 担当者による発表と質疑応答
4. 担当者による発表と質疑応答
5. 担当者による発表と質疑応答
6. 担当者による発表と質疑応答
7. 担当者による発表と質疑応答
8. 担当者による発表と質疑応答
9. 担当者による発表と質疑応答
10. 担当者による発表と質疑応答
11. 担当者による発表と質疑応答
12. 担当者による発表と質疑応答
13. 担当者による発表と質疑応答
14. 担当者による発表と質疑応答
15. 担当者による発表と質疑応答

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：教室で指示する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は I・II を連続で履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：仁平 政人

コード：LM23406, **科目ナンバリング：**LJS-LIT612J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代文学における〈異界〉

2・授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈異界〉という概念を手がかりに、多様な社会的・文化的コンテキストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 担当者による発表と質疑応答
3. 担当者による発表と質疑応答
4. 担当者による発表と質疑応答
5. 担当者による発表と質疑応答
6. 担当者による発表と質疑応答
7. 担当者による発表と質疑応答
8. 担当者による発表と質疑応答
9. 担当者による発表と質疑応答
10. 担当者による発表と質疑応答
11. 担当者による発表と質疑応答
12. 担当者による発表と質疑応答
13. 担当者による発表と質疑応答
14. 担当者による発表と質疑応答
15. 担当者による発表と質疑応答

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：教室で指示する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。